

会 告

第 81 回 講 演 大 会 講 演 募 集

— 申 込 (原稿同時提出) 締 切 り 昭 和 46 年 1 月 21 日 (木) —

本会は第 81 回講演大会を昭和 46 年 4 月 6 日(火), 7 日(水), 8 日(木)の 3 日間東京都大手町の経団連会館において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるよろご案内いたします。

講演希望者は昭和 46 年 1 月 21 日 (木) までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講 演 要 領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
(設備技術、I E などに関する発表を歓迎いたします)
2. 講演時間 1 講演につき講演 15 分、討論 5 分の予定
3. 講演前刷原稿 講演前刷原稿はオフセット印刷いたしますので別添「講演概要原稿の書き方」をご覧のうえ申込時にご提出下さい。
1) 原稿は読者に研究目的、方法、成果などが理解しやすいようにお書き下さい。謝辞は省略して下さい。
2) 原稿は所定の「オフセット用原稿用紙」1 枚(表、図、写真を含め 1600 字)にタイプ印書あるいは黒インクまたは墨を用い手書きとして下さい。
なお、オフセット用原稿用紙は別記(N190 ページ参照)のごとく有償頒布いたしますのでお申し込み下さい。
4. 講演概要集 「鉄と鋼」第 4 号(臨時増刊号)として発行いたします。

申 込 要 領

1. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
2. 講演申込制限 講演申込みは 1 人 3 件以内といたします。
3. 申込方法 本誌添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
4. 申込用紙の記載について
1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。

製 鉄			製 鋼				加 工					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属物理解	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄・鑄鋼	分析	試験・検査技術	計自動制御	I E 一般技術	その他

- 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、前記のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
 - 4) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 5) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
5. 申込みの受理
下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 講演内容が鉄鋼の学術、技術に直接関連がないと認められる場合
 - 4) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 5) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
6. 申込締切日 昭和46年1月21日(木)17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
7. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

第81回講演大会討論講演募集

——締切日(原稿ともに)昭和45年12月10日——

第81回講演大会の際に行なう討論会の討論講演を募集いたしますので、下記ご覧のうえ奮ってご応募下さい。

1. 討論会テーマ
 - 1) 焼結ペレットの高温性状 座長 吉井 周雄君
 - 2) LD転炉内の精錬反応(脱炭, 脱リン, 脱硫を含む) 座長 森 一美君
 - 3) 圧延計測 座長 野坂 康雄君
 - 4) 再結晶および薄鋼板の集合組織 (座長 阿部 秀夫君
座長 長島 晋一君
座長 橋口 隆吉君)
 - 5) 鉄鋼の格子欠陥
2. 講演時間 1講演 20分とします。
3. 討論講演の採否 討論講演としての採否は討論会座長にご一任下さい。不採用となりました場合一般講演としてプログラムに編入いたしますので、あらかじめお含みおき下さい。
4. 講演前刷原稿 講演原稿はオフセット印刷いたしますので、別添「講演概要原稿の書き方」ご覧のうえ原稿用紙4枚以内(表, 図, 写真を含め6700字に黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書き下さい。
なお、オフセット用原稿用紙は下記のごとく有償頒布いたしますのでお申込み下さい。
5. 申込方法 緩込講演申込書に必要事項ご記入のうえ申込書右肩に「討論会名」を朱書きし、原稿同封のうえお申込み下さい。
6. 申込締切日 昭和45年12月10日(木)

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より20日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1枚5円
(頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)
5枚 60円, 20枚 165円, 40枚 400円
10枚 95円, 25枚 210円, 50枚 450円
15枚 130円, 30枚 245円
100枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。
2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。
3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

講演概要原稿の書き方

講演概要集は講演者が提出された原稿をそのままB5判に縮写(原稿用紙の $\frac{2}{3}$ 縮写)し、オフセット印刷のうえ「鉄と鋼」臨時増刊号として発行いたします。

編集委員会では講演者をはじめ各位にご協力いただき、概要集を読み易くするために「手書き原稿とタイプ原稿ならびに図表原稿」の参考例を例示した「講演概要原稿の書き方」を作成いたしました。原稿執筆の際にご参照下さるようお願いいたします。

原稿執筆上の注意事項

1. 原稿用紙は本会所定のオフセット用原稿用紙(46字×40行=1840字)を使用のこと。(実質字数1656字)
2. 原稿の長さは、1題目につき原稿用紙1枚(表, 図, 写真を含む)とする。
3. 原稿は読者に研究目的, 方法, 成果などが理解しやすいようにお書き下さい。謝辞は省略して下さい。
4. 原稿は必ずタイプ印書(黒のカーボンペーパーを使用)または墨あるいは黒インキを用い(ボールペン, 鉛筆は使用しないこと)手書きとする。
5. 原稿の文字の大きさは用紙のコマいっぱい楷書で肉太に書くこと。(例2参照)
6. タイプライター使用の場合は4号または12ポ活字でタイプすること。なお5号以下の小活字は使用しないこと。(例1参照)
7. 原稿の題目, 勤務先(研究場所とあるのは勤務先のこと), 研究者氏名(講演者には○印を付ける)は指定位置に本文より字体を大きく書き, 本文は第5行目から書き出すこと。(例1, 2参照)
8. 表, 図(白紙または青色方眼紙に墨書き), 写真は原稿用紙に直接書き込むか, 糊付けすること。
9. 複写による図, 表, 写真は印刷不可能なため不採用とする。
10. 図, 写真の大きさは原稿で49cm²(126字)程度, 表, 図, 写真中の文字は1字4mm角を標準とする。(例4参照)
11. 表, 図, 写真の説明は和文とし, 番号は各々表1, 図1, 写真1と表示する。説明は図, 写真の場合その下部に, 表の場合その上部に書くこと。(例4, 6参照)
12. 図の縦軸の説明は横書きとする。(例4参照)
13. 文字の読みにくい原稿, 印刷効果上不適當と認められる原稿は書き直しまたは不採用とする場合がある。

例4 図見本

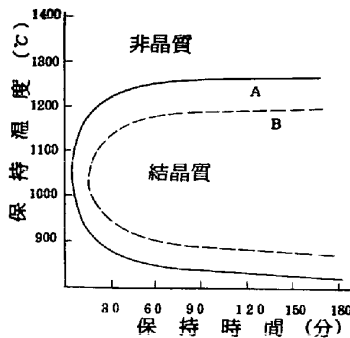


図1 恒温変態曲線

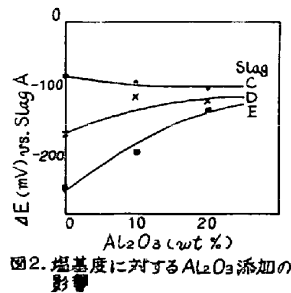
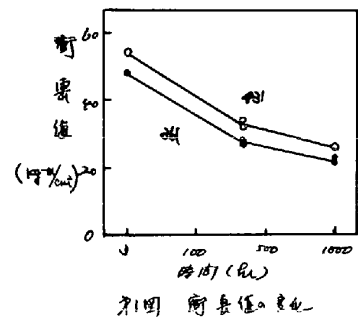


図2. 塩基度に対するAl₂O₃添加の影響

例5 悪い図原稿



例5 悪い図原稿

例6 表見本

表1 供与試料の粒度と諸性状

試料名	装入粒度 (mm)	落下強度 +10mm(%)	タンブラー強度		耐圧強度 (kg/P)	還元率 (%)	還元後回転強度		ふるい指数 (%)
			+5mm(%)	-1mm(%)			+3mm(%)	+1mm(%)	
焼結鉍	10~15	83.5	—	—	—	63	98.7	99.5	—
①ペレット	6~16	—	94.8	4.5	184	79	90.5	95.6	11.7
②ペレット	10~15	—	90.4	7.2	202	38 (40min)	49.8	50.3	測定不能

例 1

合金鋼への不活性ガス吹込みについて

タイプ原稿見本

日本鋼管 技術研究所 工博 川和 高穂 ○笹島 保敏
京浜製鉄所 三好 俊吉 杉山 敏

1. 緒 言：現在の製鋼法においては，非金属介在物の存在しない鋼を製造することは不可能である。すなわち脱酸時に生成される脱酸生成物，出鋼時における大気酸化とスラグの巻き込み，あるいは，造塊中に起る注入流の大気酸化と耐火物の剝離と溶損などは，鋼材の地疵ならびに酸化物の非金属介在物量に著しい影響を及ぼしている。前報⁽¹⁾で普通鋼へのガス吹込みについて報告したが，今回は前回と同様取鍋内合金鋼にガスを吹込み，脱酸時に生成された脱酸生成物，出鋼中に生じた酸化物と出鋼流に巻き込まれたスラグなどの浮上分離を促進させ，鋼浴の清浄化を計った。
2. 試験方法：40T電気炉で1Cr-0.5Mo, 1.25Cr-0.5Mo, 2.25Cr-1Mo鋼などをおの溶製し，出鋼終了後取鍋内溶鋼に不活性ガスとしてアルゴンガスを2～4 $\frac{\text{kg}}{\text{cm}^3}$ の圧力で溶鋼に吹込んだ。吹込み時間は5分間を目標にした。ガス吹込みの効果を調査するため，ガス吹込み中は取鍋上部，造塊中は注入流と铸型内よりおのの5 mm の石英管で試料を採取した。
3. 試験結果：ガス吹込み中の酸素変化を図1に，またガス吹込み時間と铸型内酸素の関係を図2に示した。これらの結果，取鍋内の酸素はガス吹込み時間とともに減少し，5分程度でガス吹込み前の値

例1の縮尺見本

合金鋼への不活性ガス吹込みについて

日本鋼管 技術研究所 工博 川和 高穂 ○笹島 保敏
 京浜製鉄所 三好 俊吉 杉山 敏

1. 緒言：現在の製鋼法においては、非金属介在物の存在しない鋼を製造することは不可能である。すなわち脱酸時に生成される脱酸生成物、出鋼時における大気酸化とスラグの巻き込み、あるいは、造塊中に起る注入流の大気酸化と耐火物の剝離と溶損などは、鋼材の地疵ならびに酸化物の非金属介在物量に著しい影響を及ぼしている。前報⁽¹⁾で普通鋼へのガス吹込みについて報告したが、今回は前回と同様取鍋内合金鋼にガスを吹込み、脱酸時に生成された脱酸生成物、出鋼中に生じた酸化物と出鋼流に巻き込まれたスラグなどの浮上分離を促進させ、鋼浴の清浄化を計った。

2. 試験方法：40T電気炉で1Cr-0.5Mo, 1.25Cr-0.5Mo, 2.25Cr-1Mo鋼などをおのおの溶製し、出鋼終了後取鍋内溶鋼に不活性ガスとしてアルゴンガスを2~4 kg/cm²の圧力で溶鋼に吹込んだ。吹込み時間は5分間を目標にした。ガス吹込みの効果を調査するため、ガス吹込み中は取鍋上部、造塊中は注入流と鑄型内よりおのおの5mmφの石英管で試料を採取した。

3. 試験結果：ガス吹込み中の酸素変化を図1に、またガス吹込み時間と鑄型内酸素の関係を図2に示した。これらの結果、取鍋内の酸素はガス吹込み時間とともに減少し、5分程度でガス吹込み前の値に対して約50%程度減少している。また鑄型内の酸素もガス吹込み時間の長いものほど低い値を示している。ガス吹込み終了後の取鍋内酸素と注入流の酸素を比較すると1:1に近く、また鑄型内酸素と注入流酸素も同様1:1に近いところから鑄型内の酸素を低くすることは取鍋内の酸素を低くすることにより可能であった。同じ鋼種でガス吹込みをしなかった場合と、した場合の地疵調査結果を表1に示す。

表1. 1Cr-0.5Mo鋼における地疵の比較(ただし比較材の地疵を100とした場合)

地疵指数	\bar{n}	$\bar{\ell}$	ℓ_{max}
比較材	100	100	100
試験材	115	60.0	35.4

\bar{n} : 単位面積当りの平均地疵個数
 $\bar{\ell}$: 単位面積当りの平均地疵総長さ
 ℓ_{max} : 最大地疵長さ

ガスを取鍋内に吹込み鋼浴を攪拌することによって、地疵は単位面積当りの個数 \bar{n} はあまり変わらないが、平均総長さは短くなり最大長さも短くなっている。これは、取鍋内において大型の介在物が浮上し除去されたためと思われる。

4. 結言：アルゴンガスを鋼浴中に吹込むことによって次のようなことがわかった。

- (i) 取鍋内の酸素はガス吹込み時間経過とともに徐々に減少してゆく。
- (ii) 鑄型内の酸素は、ガス吹込み時間の長かったものは低い値を示し、短かかったものは高い値を示している。
- (iii) 地疵は、ガス吹込みしないチャージに対してガス吹込みしたチャージは、平均総長さが短くなり、最大長さも短くなっている。

(1) 川和, 根本; 鉄と鋼 Vol 54(1968)P89

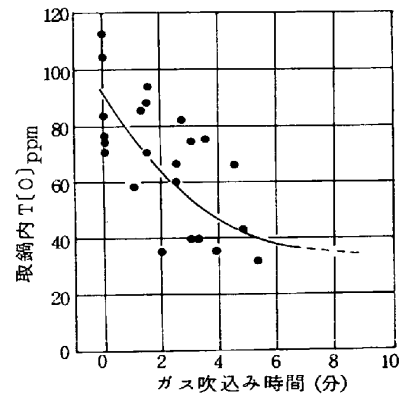


図1. ガス吹込み中の取鍋内酸素の変化

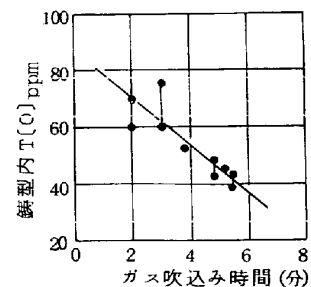


図2. ガス吹込み時間と鑄型内酸素との関係

例 2

羽口先端温度と羽口燃焼温度の相関性について

手書き原稿見本

八幡製鉄 堺製鉄所 嶋田正利 吉永博一 内田博祥
林 洋一 山田武弘 田村健二

I. 緒 言 羽口情報を定量化する目的で、当社で開発した羽口先端温度計による羽口先端の連続測温，2色高温計による羽口燃焼温度の連続測温を行った。そして、これらの計測値を理論的に推算した羽口燃焼温度および操業者の目視判定結果などと比較検討し，羽口先端温度計が高炉の重要な検出端の一つとして操業上有効に利用できることを確かめたので報告する。

II. 方 法 堺2BFの特定羽口にC A ツース熱電対を埋めこんで羽口先端の連続測温を行った¹⁾。羽口燃焼温度の計測は，熱電対を埋め込んだ羽口の視孔カバー直前に2色高温計(NEC製)を設置して連続測温を行った。また，ガスフロマトグラフによって測定した炉頂ガス組成と高炉の操業条件とから，羽口燃焼帯のワークス温度と理論火焰温度を10分毎に理論的に推算し，羽口先端温度や2色高温計による実測値と比較した。なお，理論温度の計算法は鞭ら²⁾の方法を採用した。

III. 結果と考察

1. 羽口先端温度と羽口燃焼温度の関係 両者の実測値の15分間の移動平均値を算出し，その経時変化の一例を図1に示す。両者の変動巾は相対的にならずしも1対1に対応していないが，変動時刻はほぼ一致している。このことから，羽口先端温度は羽口燃焼温度の変化をかなり忠実にとらえることができるものと考えられる。

例2の縮尺見本

羽口先端温度と羽口燃烧温度の相関性について

八幡製鉄 堺製鉄所 嶋田正利 吉永博一 内田博祥
林 洋一 山田武弘 田村健二

I. 緒言 羽口情報を定量化する目的で、当社で開発した羽口先端温度計による羽口先端の連続测温，2色高温計による羽口燃烧温度の連続测温を行った。そして、これらの計測値を理論的に推算した羽口燃烧温度および操業者の目視判定結果などと比較検討し、羽口先端温度計が高炉の重要な検出端の一つとして操業上有効に利用できることを確認したので報告する。

II. 方法 堺2BFの特定羽口にCAツース熱電対を埋めこんで羽口先端の連続测温を行った¹⁾。羽口燃烧温度の計測は、熱電対を埋めこんだ羽口の視孔カバー直前に2色高温計(NEC製)を設置して連続测温を行った。また、ガスクロマトグラフによって測定した炉頂ガス組成と高炉の操業条件とから、羽口燃烧帯のコークス温度と理論火焰温度を10分毎に理論的に推算し、羽口先端温度と2色高温計による実測値と比較した。なお、理論温度の計算法は鞭ら²⁾の方法を採用した。

III. 結果と考察

1. 羽口先端温度と羽口燃烧温度の関係 両者の実測値の15分間の移動平均値を算出し、その経時変化の一例を図1に示す。両者の変動中は相対的にかならずしも1対1に対応していないが、変動時刻はほぼ一致している。このことから、羽口先端温度は羽口燃烧温度の変化をかなり忠実にとらえることができるものと考えられる。

2. 羽口燃烧温度の実測値と理論値の比較 羽口レベルのコークス温度と理論火焰温度を鞭らの式²⁾を使って推算し、その結果を示したのが図2である。なお同時に、2色高温計による実測値と羽口先端温度の生のデータの経時変化を併記した。図2より明らかなように、2色高温計による実測値と理論コークス温度とは、数値の大きさ、変動中、傾向がいずれも比較的良好に一致している。

3. 羽口先端温度と羽口の目視判定との相関性について 操業者の目視判定にもとづいて、羽口の輝きあるいは生鉾下りなどから羽口指数を算出し、羽口先端温度との関係を調べたところ、明らかに両者の相関を認めることができた。

IV. 結言 技術的にもまたコスト的にも比較的簡単にとりつけられる羽口先端温度計が、羽口情報の検出端として有効に活用できることが明らかとなった。

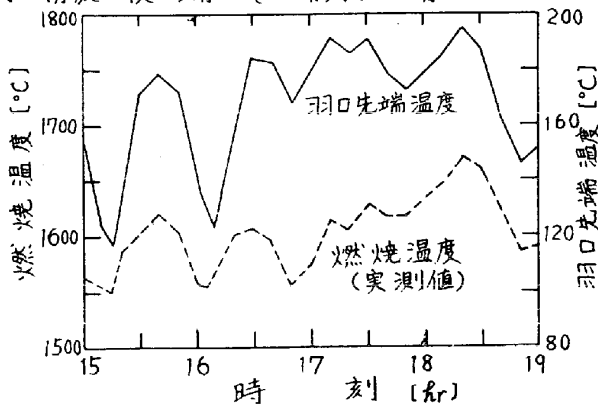


図1. 羽口先端温度と羽口燃烧温度の関係 (15分間の移動平均値)

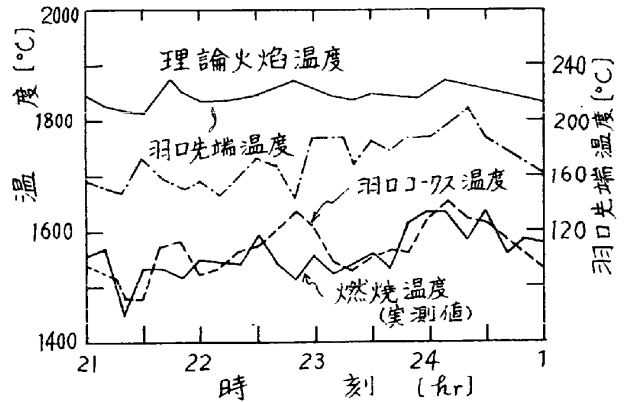


図2. 羽口燃烧温度の実測値と理論値 および羽口先端温度の経時変化

文献1) 三塚, 森瀬, 阿由葉, 津田: 本誌, 54(1968) No.3, P.51.

文献2) 鞭, 田村, 八木, 森山: 日本金属学会誌, 30(1966), P.1109~1114.

例3 悪い手書き原稿

講演概要原稿の書き方

日本鉄鋼協会 編纂課

講演概要集は講演者から提出された原稿をそのまゝB₅判(3号)に縮小し、A7号のA印刷りの之。
 「鉄と鋼」臨時増刊号として発行いたします。
 編纂委員会では講演(者)演)とはじめの各ページに「はじめの巻」を添付し、概要集と読み易くする為のA6の「手書き原稿と
 マイアノ原稿はらびに図表原稿上の参考例を例示して「講演概要原稿の書き方」と作成いたしました。
 原稿執筆の際に必ずしも下まじょうを願ひいたします。

例3の縮尺見本

講演概要原稿の書き方

日本鉄鋼協会 編纂課

講演概要集は講演者から提出された原稿をそのまゝB₅判(3号)に縮小し、A7号のA印刷りの之。
 「鉄と鋼」臨時増刊号として発行いたします。
 編纂委員会では講演(者)演)とはじめの各ページに「はじめの巻」を添付し、概要集と読み易くする為のA6の「手書き原稿と
 マイアノ原稿はらびに図表原稿上の参考例を例示して「講演概要原稿の書き方」と作成いたしました。
 原稿執筆の際に必ずしも下まじょうを願ひいたします。

会費納入についてのお願い

昭和46年分会費の納入期がまいりました。会費は毎年12月に1年分を前納するか、または毎年12月および6月の2回に分けて、おのおの6カ月分を前納していただくことになっておりますので、別送の振替用紙または現金書留にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

記

正会員年会費 3,000円

学生会員年会費 1,500円

外国会員年会費 3,600円

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階
社団法人 日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番

特別講演会・見学会開催のお知らせ

(日本鉄鋼協会東海支部)

本会東海支部では日本金属学会ならびに溶接学会の東海支部と共催で特別講演会を、また日本金属学会東海支部共催で見学会を下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

記

— 特別講演会 —

日時 昭和45年12月11日(金) 13:00~16:00

場所 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部講堂会議室(4号館3階)

題目及び講師 13:00~15:00 “最近の脆性破壊に関する諸研究と鋼材の選択”

東京大学教授 金 沢 武君

映 画 15:00~16:00 創造の空間—EXPO 70—

— 見学会 —

日時 昭和45年12月1日(火) 9:00~17:00

場所 1) 日本電装株式会社安城製作所

2) アイシン精機株式会社西尾工場

定 員 40名(定員になり次第締切らせていただきます。)

集合場所 および時間 8時30分までに名古屋市栄テレビ塔下に集合

会 費 一般 500円 学生 300円

申込方法 連絡先、勤務先、役職名、氏名、明記のうえ会費(現金書留)をそえて下記支部宛お申し込み下さい。

申込締切日 昭和45年11月24日(火)

なお、同業の方の見学はご遠慮いただきます。

〒464 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部金属鉄鋼工学教室内
日本鉄鋼協会東海支部 (TEL 781-5111 内線 3372)

「鉄と鋼」広告掲載料金改正について

会誌「鉄と鋼」は内容の充実にともない、発行部数も著るしく増加してまいりましたが、印刷費、用紙代など諸経費の値上りははなはだしいものがあります。つきましては昭和46年4月号掲載分よりやむをえず広告掲載料金を下記のごとく改正いたしますのでお知らせいたします。なにとぞご了承のうえ今後ともよろしく本誌をご利用下さるようお願いいたします。

表紙	2	1ページ	65,000	前付	1ページ	44,000
	3	〃	56,000	後付	〃	38,000
	4	〃	72,000	〃	1/2ページ	21,000
表紙2対向	〃	〃	46,000	広告目次下	〃	24,000
本文対向色紙	〃	〃	56,000	表紙3対向	1ページ	40,000
色紙	〃	〃	54,000	〃	1/2ページ	22,000
				綴込	1枚	60,000

日本学術会議有権者登録について

日本学術会議第8期会員選挙が昭和46年11月25日に行なわれます。有権者名簿の登録について下記のごとく連絡がありましたのでお知らせいたします。なお詳細については日本学術会議（東京都港区六本木7丁目22番34号；Tel. (03) 403-6291）にお問い合わせ下さい。

1. 登録用カードの提出について

- (1) 前回（第8期，昭和43年）の選挙の有権者については，前回提出のカードにより，本年資格審査が行なわれました。

これに関し，日本学術会議中央選挙管理会から登録用カードを提出されるよう通知のあった方以外の方は，すべてひきつづき有権者名簿に登録されますが，あらかじめ登録用カードを提出する必要はありません。

ただし，前回の登録における所属以外の部または専門で今回の登録を求めようとする方は，別記様式第2の「所属または専門変更届」により，登録用カード用紙を請求してください。

- (2) 前回の選挙の有権者以外の方および前回の選挙の有権者で中央選挙管理会からあらかじめ登録用カードを提出されるよう通知のあった方が，今回の選挙に登録を求める場合は，中央選挙管理会に登録用カード用紙を請求入手のうえ，昭和46年3月31日までに中央選挙管理会に必着するよう登録用カードを提出してください。

なお，4月1日以後に到着した登録用カードは，次回（第10期，昭和49年）の会員選挙の録登録用カードとして中央選挙管理会で保管します。

2. 登録用カード用紙の請求について

- (1) 登録用カード用紙の請求に関し，大学・研究機関等に対しては「登録用カード用紙請求者名簿」の提出を依頼しました。

中央選挙管理会では，名簿が提出されれば名簿に基づいて当該大学・研究機関あてに，登録用カード用紙を一括して送付します。

したがって，中央選挙管理会から名簿提出を依頼された大学・研究機関等に所属する方で，既に個人としてカード用紙を請求した方以外の方は，なるべく所属の大学・研究機関等から提出する名簿によつて，登録用カード用紙を請求してください。名簿によつて請求する場合は，個人からの請求は不要ですから，重複して請求しないよう特に注意してください。

- (2) 前記の大学・研究機関等に所属しない方で個人でカード用紙を請求する方は，下記様式第1により「登録用カード用紙請求書」を直接，中央選挙管理会あて提出してください。

3. 有権者等の異動届について

有権者は氏名，住所（住居表示の変更を含む），本籍，勤務機関および職名，勤務地等のいずれかに異動があったとき，または博士の学位を取得した場合には，そのつどすみやかに，別記様式第3により，「有権者異動届」を中央選挙管理会に提出してください。これを怠ると，有権者の権利を行使できないことがあります。

なお，登録用カード提出者は，有権者名簿に登録される以前においても異動の届を励行してください。また，本人が死亡した場合は，その旨を，遺族またはその関係者から届け出てください。

たたら製鉄復元記録映画 和鋼風土記の頒布について

日本鉄鋼協会たたら製鉄法復元計画委員会で昨年 10 月から 11 月にかけて島根県飯石郡吉田村で行ないましたたたら製鉄法の復元事業の記録映画「和鋼風土記」および英語版が完成いたしましたので、ご希望の方に有償頒布いたします。

題名 「和鋼風土記」 16m/m 版カラー映画 長さ 30 分

企画 日本鉄鋼協会

製作 岩波映画製作所

文部省選定映画

1970年度教育映画祭教養部門特別賞受賞

第5回教育映画コンクール一般教養部門銀賞受賞

頒布価格 10 万円

上記記録映画「和鋼風土記」の英語版

“TATARA”

— An Old Ironmaking Process of Japan —

日本紹介映画コンクール優秀賞受賞

頒布価格 10万 8 千円 (300 ドル)

お申し込み先

社団法人日本鉄鋼協会 たたら製鉄法復元計画委員会

東京都千代田区大手町 1-9-4 (経団連 3 階 〒 100) TEL (03) 279-6021

金属学会セミナー

「合金構造の問題」

協賛 日本鉄鋼協会, ほか

日時 昭和 45 年 11 月 25 日(水), 26日(木) 9:00~17:00

場所 大阪府社会福祉会館 (大阪市南区田島町 2 電話 (06) 762-5681)

講義内容と講師

◇第 1 日 11 月 25 日

1. 合金とは? (合金構造序説) 9:00~11:00 阪大基礎工学部教授 藤田 英一君
合金の簡単な解説, いろいろな問題の紹介, 古典熱力学的取扱いと電子論との繋がりを考慮しながらの回顧と新しい方向の Suggestion
2. 合金の電子構造 12:00~14:00 東大物性研究所教授 山下 次郎君
Friedel の様な稀薄合金における不純物原子的取扱いから Pseudo potential の扱い, APW, OPW 法等, Fermi 面, Brillouin zone に関する合金の問題, Hume-Rothery, Masarski 流の考え, 合金の電子比熱, 輸送現象
3. 合金の統計理論 14:10~16:10 名大工学部教授 高木 豊君
対相互作用による相図, 相変態等の統計的取扱い, 高木の方法, 菊池の取扱, 相関とゆらぎ, 実例として Spinodal (modulated structure), Invar 問題など

◇第 2 日 11 月 26 日

4. 規則格子, とくに長周期構造の問題 9:00~11:00 東北大金研教授 平林 真君
置換型, 侵入型, 長周期規則格子, Short range order など
5. 合金中の原子分布と回折現象 12:00~14:00 日本原研物理部 土井 健治君
ゆらぎ, 規則化過程, 変調構造, G.P. ゾーン等と (主として) 散漫散乱, 小角散乱など
6. 合金と金属間化合物 14:10~16:10 北大理学部教授 三井 惟靖君

聴講料 (テキスト代を含む) 会員 5,000円 非会員 7,000円 学生会員 1,400円 学生非会員 2,000円
(協賛学協会の会員は会員聴講料とします)

申込締切 11 月 10 日

定員 200 名 (ただし定員に達し次第締切ります)

申込要領 所定の申込書の各欄ご記入の上, 聴講料を添え (現金書留, 為替, 振替 仙台 5592 のいずれでもよい) お申込み下さい. 受理次第聴講券をお送りいたします.

申込先 980 仙台市大町 1 丁目 1 番 13 号 (東活ビル) 日本金属学会 電話 (0222) 23-3685

受講対象 大学院修士課程および金属関係の大学卒業程度のもの

第 8 回理工学における同位元素研究発表会 論 文 募 集

共 催 日本鉄鋼協会，ほか
会 期 昭和 46 年 4 月 15 日(木)～17 日(土)
会 場 国立教育会館 (東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 3 号 文部省となり)

発表論文

- (1) 内容 それぞれの研究分野において，その専門的成果をうるにいたつた同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と，同位元素，放射線の利用の基礎となる研究論文とします。なお，えられた専門的成果の報告も差しつかえありません。
研究の内容には，少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。
- (2) 発表申込み区分 プログラム編成の便宜上，つぎのように申込み区分を設けます。
- ① 放射線照射のための線源および装置に関するもの
 - ② 放射線化学その他照射効果に関するもの
 - ③ ラジオグラフィに関するもの (装置に関するものを含む)
 - ④ オートラジオグラフィに関するもの
 - ⑤ 放射線利用計測機器の利用と開発に関するもの
 - ⑥ 放射線利用機器に関するもの (エネルギー的利用，発光塗料なども含む)
 - ⑦ トレーサー的利用に関するもの (安定同位元素も含む)
 - ⑧ 分析に関するもの (安定同位元素も含む)
 - ⑨ 製造，分離，精製に関するもの (安定同位元素も含む)
 - ⑩ 化合物の合成，標識化に関するもの (安定同位元素も含む)
 - ⑪ 放射線測定法および測定器に関するもの
 - ⑫ 安全取扱に関するもの (遮蔽，施設，設備，器具，健康管理なども含む)
 - ⑬ 廃棄物処理，汚染除去に関するもの
 - ⑭ 地球科学，宇宙科学およびラジオエコロジーに関するもの (安定同位元素も含む)
 - ⑮ その他
- (3) 発表時間 1 件の発表 15 分以内の予定

発表者の資格 発表申込者が所属する主催学・協会の年会 (大会) 等の規定または慣例に従う。

発表申込み 所定の申込書 (1 件 1 通) によりお申し込み下さい。所定の申込書は，下記あて請求して下さい。

113 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 45 号 (理研内) 日本放射性同位元素協会内
理工学における同位元素研究発表会運営委員会
電話 東京 (03) 946 局 7111 番 (代表)

発表申込み締切：昭和 46 年 1 月 30 日 (土) 必着

講演要旨 講演要旨集を発行します。発表申込みがあり次第，所定の原稿用紙 (1, 200 字程度) をお送りします。

講演要旨原稿締切：昭和 46 年 2 月 27 日 (土) 必着

そ の 他

- (1) この研究発表会の運営は，主催学・協会より選出された各 1 名の委員で構成された運営委員会において行ないます。
- (2) フルペーパーの報文集は特に発行しません。
なお，日本放射性同位元素協会の学術機関誌 “RADIOISOTOPES” にはこの研究発表会の発表論文にかぎり，同協会会員外でも投稿することができます。
- (3) つぎのいずれかに該当する場合には発表をお断りしますから，ご注意下さい。
 - i) 講演要旨に記述された内容が本研究発表会の趣旨に合致すると認められない場合。
 - ii) 発表者の資格が，所属主催学・協会の規定または慣例に合致しない場合。
 - iii) 期日までに講演要旨原稿が提出されなかつた場合。

「鉄と鋼」特集号発行変更のお知らせ

「圧延ロールの材質と寿命」を特集し，会誌 46 年 3 月号 (第 3 号) にて発行することを会告いたしておりましたが，編集の都合により 46 年 4 月号 (第 5 号) で発行することに変更いたしましたのでお知らせいたします。

「鉄と鋼」寄稿規程一部改訂のお知らせ

編集委員会では昭和42年に編集方針を変更し、合わせて「寄稿規程ならびに執筆要領」の改訂を行ないましたが、今回会員各位のご意向を参考としてその見直しをし、部分的な改訂を行ない、昭和46年1月1日より実施することになりましたのでお知らせいたします。

「鉄と鋼」寄稿規程

- 1) 本会会員は、会誌「鉄と鋼」に「寄稿区分」に示す原稿を講演発表とは関係なく投稿することができる。ただし寄書は会員でなくても投稿することができる。
- 2) 原稿は、会誌に掲載する前に他の学協会誌およびそれに類する刊行物に発表されないものに限る。
- 3) 原稿は、鉄鋼の学術ならびに技術の発展に寄与するものでなければならない。
- 4) 原稿は簡潔、正確であり、内容を容易に理解できるものでなければならない。
- 5) 原稿の執筆は「執筆要領」に基づくものとする。
- 6) 原稿の受理年月日は、原稿が本会に到着した日とする。
- 7) 原稿は編集委員会において審査し、掲載の可否を決定する。また審査の結果、修正、加筆、削除などのために原稿を返却することがある。その場合、編集委員会の指定した返却日を過ぎて再提出されたものについては、新規投稿とみなすこともある。

寄 稿 区 分

原稿区分	原 稿 内 容	原 稿 制 限	英文要旨
論 文	著者の独創になる学術および技術の成果を記述したもの	とくに制限しない	200語以内 (和文添付)
技術報告	鉄鋼の製造技術、設備技術、管理技術および材料技術などの成果を記述したもの	表、図、写真を含め25枚(450字詰)以内とする。ただし依頼報告はこの限りでない	200語以内 (和文添付)
研究速報	著者の独創的研究成果で、発表期日の優先性を必要とするものであり、その理由を明確にした小論文	表、図、写真を含め8枚以内とする	200語以内 (和文添付)
寄 書	著者の独創的研究成果のほか、鉄鋼に関する学術または技術についての意見あるいは提案などを編集者に対する通信の形で述べたもの	表、図、写真を含め4枚以内とする 図、写真は合わせて2枚以内とする	不 要
誌上討論	会誌「鉄と鋼」に掲載された論文、技術報告、研究速報に対する修正意見、例証、反証などを述べたもの	表、図、写真を含め3枚以内とする	不 要